

# ユーザーレポート

# — 0の証明 —

# User Report

■ 日本フレートライナー株式会社

## 確実な点呼執行は、安全を担保するための“生命線”。 信頼できる機器の導入により、その精度が高まりました。

一連の法令改正により、点呼の執行・記録・保存において厳格な運用が求められるようになった今、運送業各社は点呼をどのようにとらえ、体制の再構築を図っているでしょうか。  
今回はJR貨物グループの一翼を担う、日本フレートライナー株式会社様にその取り組みを伺いました。

### ご利用機器

- ALC-PROII
- Tenko-PRO2
- ALC-miniIII



### 選定ポイント

**安全対策を怠る者は、安全対策に泣く。  
精度の高さが必須条件でした**

当社が東海電子の機器を導入するきっかけは、やはりアルコール検知器使用の義務化。当時、物流技術管理士資格取得のため講習会に参加していたのですが、そこで出会った同業受講者からの評価が高く、すぐにHPから問合せをしました。ただ、社内では費用対効果の観点から、様々な議論が交わされたのも事実です、安価なものも確かにありますから。

しかし、「安全対策を怠る者は、安全対策に泣く」。だから、絶対的とも言える精度の高さが必須条件と考えました。それがなければ、取引先からの信用はもちろん、運行管理者とドライバーとの信頼関係さえ損ないかねません。

現在、トラックを持つ全国14拠点と本社にALC-miniIIIを導入していますが、正確なアルコールチェックが可能になったことに加え、「時間と量を決めてお酒を飲む」、中には「自費で簡易型機器を購入し、念のため出勤前に確認する」ドライバーも出現するなど、現場サイドの意識も変化してきているようです。そして、こうした変化が社内での認知・高評価を生み、Tenko-PROの検討・導入へとつながっていきました。



※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

理想の点呼とは **基本は対話。そこに機械を介在させ**  
..... **“うっかり忘れ”や“馴れ合い”を排除**

点呼は単なる“確認”ではなく、安全を担保するための“生命線”。執行、記録、保存のいずれも、すべて標準化されていることが理想と言えます。その根本は、もちろん人対人の対話ですが、それだけだと、“うっかり忘れ”や“馴れ合い”といったマイナス要素が入り込んできます。その不確実性を排除するために、敢えて機械を介在させ、ヒューマンエラーを未然に防ごう...と。2012年8月に導入し、東京自動車営業所（南千住）を親、東京支所（品川）を子とした一対一の環境で運用を開始しました。Tenko-PROは、あらかじめ10項目の点呼内容を設定でき、一つひとつ確認・操作しないと次に進むことができません。また、記録簿はもちろん、点呼中の画像や動画も残せますから、確実性がいっそう増すわけです。

コストパフォーマンスも、運行管理者を置くことに比べれば、決して高くはないと感じています。メンテナンス面でも、機械自体が期日前にアラームで教えてくれますので、作業的な負担は少ないですね。

これらの機器導入を契機に、本社管理部門が積極的に現場とかかわり合いを持ち、その中でいかに安全教育を徹底するかが今のテーマです。運転手への教育に加え、運行管理者の教育も充実させること。その一環として、積極的な外部講習会の活用にも取り組んでいます。

山本五十六の「やってみて、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」という言葉を、運行管理者として常に頭の片隅に置いています。現場を支えるのが管理部門の役割。身の引き締る想いです。



### 取材後記

トラックと鉄道を組み合わせたモーダルシフト輸送の担い手として、全国に事業展開する日本フレートライナー株式会社。同社の社是は「親和協働」。安全面はもちろん、点呼者と被点呼者双方の信頼関係深化にもALC-miniIII、Tenko-PROは役立てられている。

### 取材ご協力

日本フレートライナー株式会社

自動車部

住所: 〒101-0032 東京都千代田区岩本町二丁目14番2号  
イトーピア岩本町ANNEXビル2階

TEL: 03-6891-6761(代表) FAX: 03-6891-6760

URL: <https://www.f-l.co.jp/>

